

名医の健康パトック

鼻血



今週の名医

笠井耳鼻咽喉科クリニック
(東京都目黒区)
笠井創院長
'50年生まれ。千葉大学医学部卒業。耳鼻咽喉科の専門医

月に2回も鼻血が出ます

Q
読者の不安

32歳の独身男性です。今年になって、月に1〜2回の頻度で鼻血が出るようになり、強く湧かんだりした記憶もなく、原因が思い当たりません。
血圧は少し高めで糖尿病

の持病があります。酒は毎晩焼酎の水割りを3杯飲みます。タバコは吸いませんが何か重大な病気の兆候ではと心配しています。
(千葉県船橋市 S・K)

A 名医の診断

鼻血の90%は「キーゼルバツハ」と呼ばれる部位からの出血です。

キーゼルバツハとは、左右の鼻の穴から小指の第一関節ほど奥に入った周辺にある、コリコリした軟骨の出っ張りのことです。キーゼルバツハには毛細血管が張り巡らされていて、しかも指の先が簡単に届く位置にあるので不用意に鼻の穴をいじっていると、傷つけ

てしまいがちです。一度血管を傷つけて鼻血を起こすと、出血部位に癒蓋ができて、湧を強くかんたり、洗面時の刺激などで再び出血することがよくあります。

キーゼルバツハからの出血には、命に関わるような重大な疾患との関連性はありません。出血したら慌てずに横になり、ティッシュをでけるだけ小さく固めて、鼻の穴の入り口から1cmほどのキーゼルバツハの部位に詰めてください。あとは15分前後、小鼻をしっかりと指でつまんで圧迫しておけば、止まるでしょう。

「顔を仰向けにして、首の後ろを叩くと鼻血が止まる」といわれることもあり、ますが、これは間違いです。また、出血部位がキーゼルバツハではなく、もっと奥の太い血管であることもあり、量も多いので、「普通の鼻血ではない」と思ったら、救急車を呼ぶなどしてすぐ

に大きな医療機関へ行きましょう。

なぜ鼻の奥の太い血管が切れるのか、詳しい原因はわかっていません。しかし、高血圧や動脈硬化などの基礎疾患が引き金になっているケースが多いといわれています。事実、キーゼルバツハにある毛細血管には動脈硬化は起こりませんが、鼻の奥にある太い血管は、高血圧や動脈硬化によって傷つきやすくなるのがわかっていきます。また、糖尿病や尿毒症、肝硬変、ビタミンC欠乏症なども鼻血を引き起こす基礎疾患だといわれています。

S・Kさんは高血圧と糖尿病の持病がおありのようです。両疾患とも鼻血の促進因子なのでしっかりと治療しておく必要があります。具体的には、まず耳鼻咽喉科で鼻の検査を受け、出血部位がキーゼルバツハであれば粘膜を焼いて固めることによって出血を防ぐ

「鼻腔粘膜焼灼術」を施します。

もし出血がキーゼルバツハでないなら、内科を受診して血糖と血圧をコントロールすることをおすすめします。
(文・甲斐良一)

〈鼻血の主な専門医〉
三好耳鼻咽喉科クリニック
(宮城県)・三好彰院長、小野耳鼻咽喉科医院(埼玉県)

・小野忠彦院長、同愛記念病院(東京都)・野原修耳鼻咽喉科部長、藤田保健衛生大(愛知県)・内藤健晴教授、岡山大・岡野光博助教授

**あなたの不安に
お答えします**

●宛先 112-8001 講談社・週刊現代「名医の健康パトック」係
●往復ハガキに、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記のうえ、質問をお送りください。
●このページを通じてだけでは、基本的にはすべての質問にお答えしませんが、治療中の病気に関するものについては、混乱を招く恐れがありますので、お答えし兼ねることがあります。ご了承ください。